



東温市総合公園（東温市西岡）の桜と道後平野

## 救急輪番1年を振り返って

当院が平成28年4月1日に松山医療圏の救急医療を開始してから1年が経過しました。爾来、松山市・伊予市・東温市・上浮穴郡（久万高原町）・伊予郡（松前町、砥部町）の5地域の人口約65万人に対し、当院を含めた14病院が8日に1回の輪番制で二次救急医療にあたっています。

この1年に救急車で搬送された方は約800名、救急車以外で来院された方は約2,000名にのぼり、そのうち2割以上の方が入院治療を受けられました。日によって来院者数には波がありますが、土日祝日には100名を超えることがあります。時間的には午後7時～10時の間に集中する傾向があるようです。そのような時に重症者が搬送されてくると、比較的軽症の患者さんには待ち時間が長くなるなどのご負担をかけることがありました。また初めて来院される方からは特に夜、道や場所がわかりにくいとい

うご指摘を受けたこともあります。引き続き改善策を講じていきたいと考えています。

手探りだったこの1年の経験をふまえ、急性期医療に要求される医療レベルの保持向上に努めていきたいと思いを新たにしています。また、輪番日には愛媛大学医学部附属病院から研修医とその指導医の先生に診療の応援に来ていただいております。地域の救急医療における研修医療機関としての役割もしっかり果たしていかなければなりません。と同時に、何よりも当院の本来の姿である患者さんにじっくり向き合う、人に優しい医療をおろそかにすることのないよう心がけて参ります。

地域住民の皆様をはじめ医師会や他の医療機関、行政機関の方々には今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

副院長 阿部 聖裕

# 第12回 院内研究発表会

平成29年2月24日(金)の午後に恒例の院内研究発表会を開催いたしました。院内各部署での研究・診療活動について発表しあい、議論を通して更に向上を図るのが目的です。臨床研究部(院内標榜)が設置されてから毎年開催し、早いもので12回目となりました。本年は病院業務が各部署とも忙しくなり、演題応募が少なくなることが危惧されましたが、例年どおり多部署から16演題が集まりました。

内訳は、医局から3題、新病棟・リハビリから2題ずつ、重病棟・栄養管理室・療育指導室・臨床工学・薬剤部・放射線科・糖尿病グループ・RST・検査科から1題ずつで、多岐にわたっていました。院内で行われている多くの研究・診療活動を知ることができましたし、各演題につき有益な討論が活発に行えたと思います。今後も継続していけばさらに充実した結果が期待される研究



も多々みられました。来年以降も継続・発展した研究の結果発表を期待いたします。

昨年から行われています優秀発表の表彰では、超音波検査による筋肉の質的評価法について発表されたリハビリの川道幸司さんに病院長賞、C型肝炎感染者における治療と脂質代謝との関係について発表された肝疾患・糖尿病グループ(栄養管理室)の田中哉枝さんに臨床研究部長賞が授与されました。

本年も開催にあたって、ご協力いただいた臨床研究関係者に感謝いたします。

臨床研究部長 松田 俊二



## 演 題 一 覧

### 第1群

高齢の慢性心不全患者に対する自己管理行動支援の有効性  
～内服管理・体重管理に焦点を当てて～

当院における担がん入院患者の栄養管理  
～効率よい介入へのアプローチ～

当院における成年後見人等選任の現状と課題

重症心身障害児(者) 家族の医療型短期入所利用による療育負担の軽減

HFT専用デバイスの加温加湿性能比較

### 第2群

変形・拘縮のある重症心身障害者の筋緊張緩和の取り組み  
～排泄援助前のムーブメント療法の導入～

結核患者の二次性サルコペニアの要因に関する研究

救急におけるAquilion PRIMEの臨床経験

抗ウイルス療法(DAA)施行C型慢性肝疾患患者におけるLDL-CおよびLDL-C/HDL-C比の増加  
低強度レジスタンス集団トレーニング導入後の効果と問題点について



### 第3群

肺炎球菌ワクチン定期接種に関するアンケート調査

超音波診断装置を応用した骨格筋の解析

各種モダリティにより診断に至った第一中隔枝ACSの一例

当院における救急診療開始前後の人工呼吸療法の状況

右冠動脈および左内胸動脈との吻合を認めた続発性気管支動脈蔓状血管腫の1例

長期入院施設における感染症の流行状況  
～高齢者介護施設に対するアンケート調査～



病院長賞を受賞した川道理学療法主任(右)と臨床研究部長賞を受賞した田中栄養管理室長

# 地域の輪



## 退院調整看護師養成研修に参加して

### 繋がる地域医療連携

今回、退院調整看護師養成研修会を受講し、その中で院外実習をさせて頂く機会を持つことが出来ました。

私自身、久しぶりの実習で緊張し、学生時代を思い出しながら向かった実習では、高齢化社会の中で、対象者の生きがいや生活を支えるため、在宅での生活に向けて「予防介護」「自立支援」という認識が高いことを学びました。

そして、その中で出会ったスタッフの方の働きかけや地域の人々の笑顔を見て、やっぱり住み慣れた場所っていいな、人との関わりって温かいなと感じました。

特に地域包括支援センターでは、健康で自立した生活を送っているときから高齢者と関わり、顔の見える関係づくりをしていました。ふれあいサロンでは、趣向を凝らした活動がされており、実習という立場を忘れて楽しんでしまうほど、今の私でも毎月参加したいと感じました。介護老人施設でも、施設から在宅への生活に移行できるよう、積極的に通所リハビリを行う等のアプローチがされており、施設の方の在宅への支援の意識の高さに感銘を受けました。訪問看護ステーションの実習では、在宅での生活は介護サービスに支えられることで、介護負担も軽減されていることが分かりました。また、在宅で行う看護場面は、生活の

一部としてその人にあった工夫がされており、勉強することがたくさんありました。

私たち病院看護師は、在宅で生活を望む患者や家族に対して、このような社会資源を活用できるようタイミングよく退院調整を行う必要があると感じました。入院時に必要な情報として収集するADL（日常生活動作）・IADL（手段的日常生活動作）が、退院後に悪化が予測されるものは何か、そのために必要な援助は何かを患者の病状の変化に合わせてその都度考えていく必要があります。患者に一番近いところにいる病棟看護師として大切な役割は、現在の患者の治療やADL、療養生活の状況を、在宅で生活を支える職種の方へ伝え、情報の共有を行うことです。

病院の環境で考えるのではなく、出来るだけ患者や家族の思いを尊重した退院支援を実践していくことが、これからの役割と考え、日々実践していきたいです。

3階病棟看護師 村下 桂子



## 市道横河原10号線拡幅 ご不便をおかけします



東温市による市道横河原10号線の拡幅工事が素鷲神社前（松山刑務所前交差点）から横河原駅方面へと進められています。平成29年度はいよいよ愛媛医療センターから東温消防署へと続く道路の拡幅工事が始まり、道路幅員が現在のものより約4メートル広がる予定です。

さらに、来年4月以降には住宅側にゆったりとした歩道が整備され、徒歩や自転車での通勤通学、道路沿いの店舗の利用などに配慮した道路となります。

この道路拡幅工事に関連して、昨年秋には当院の生垣や道路沿いの樹木の伐採工事を行い、近隣の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。現在、病院敷地と市道との境界は木板による仮囲いの状況ですが、今後、道路拡幅工事の進行に合わせ、フェンス等の設置を行う予定です。

道路拡幅工事や関連する病院敷地側の工事では地域の方や来院される方にご不便をおかけすることがあるかと思いますが、愛媛医療センターとしてもこの工事が安全で、また出来るだけ通行に支障がないように東温市と協力してまいりますので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

企画課長 森脇 祐治



拡幅工事前の正面玄関付近

# 医心伝心

心臓CTのおはなし

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

昨年CTの装置が更新され同時に画像処理のためのワークステーションが導入されました。これによって待望の心臓CT検査が可能になりました。

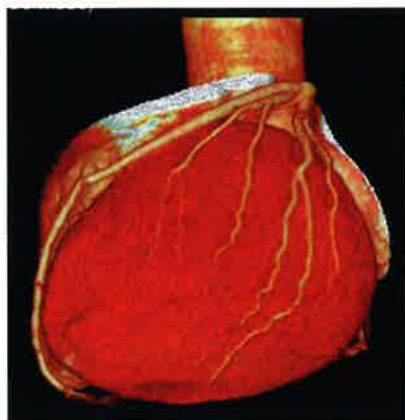
心臓の筋肉に栄養を運んでいる血管を冠動脈といい、この血管に狭窄があると狭心症に、閉塞が生じ心筋に障害がでると心筋梗塞になります。心臓CTでは冠動脈に病変があるかどうかを診ることによく使われます。この冠動脈は2～3mm程度と細い上に、心臓は常に拍動していますが非常にきれいに描出できます。心臓CTの特徴はその高い陰性的中率にあります。これは心臓CTで冠動脈に狭窄が見られなければ、ほとんどの場合は本当に狭窄がないということです。つまり心臓CTで異常がなければ従来のようなカテーテル検査を省ける可能性があります。ただし動脈硬化が強く冠動脈に石灰化が多い場合は、真に狭窄しているのか、石灰化のせいで狭く見えるのか区別できず精確な診断ができません。このような方はカテーテル検査が必要になります。

残念ながら心臓CTにも制限があります。まず造影剤を使うので造影剤アレルギーのある方や腎機能の悪い方は検査できません。また撮影の際に

心電図に合わせてX線を出しているので不整脈の方は画像に乱れが出ることがあります。

冠動脈疾患以外にも適応が拡大しており、心奇形、心臓の動き、弁の状態、心筋の血流状態の評価も可能になりつつあります。今後も患者さんに負担の少ない検査になるよう進めていきます。

放射線科医師 菊池 隆徳



CTで撮影した心臓（左冠動脈）

# 祝 成人式



平成29年1月18日(水)、平成28年度重症心身障害者（療養介護）病棟の成人式を挙行了しました。当院からは院長をはじめ多数の幹部職員が列席し、また、来賓には県立しげのぶ特別支援学校や県立子ども療育センターの諸先生方、重症心身障害病棟保護者会会長、患者会代表の皆様にご臨席を賜り、盛大に挙行することができました。

今年度の成人式は2名の新成人がおられ、男性はピシッとスーツ姿、女性は美しい振袖姿で参加しました。参列者も全員正装で、ご家族も普段と違う雰囲気の中で緊張感が高まっていました。しげのぶ特別支援学校喜安勝也校長先生の祝辞の中に「SMAPの『世界に一つだけの花』の歌詞より“No.1にならなくてもいい もっともっと特別なonly1!” そんな存在にこれからもなってください。」というお言葉を頂きました。また、保護者会安永会長の祝辞では、ご家族へこれまでの労いのお言葉を頂きました。

新成人誓いの言葉のときには、ご家族の方々が声を震わせて涙ぐむ姿と、それとは対照的に満面の笑みで参列者を見ている新成人が印象的でした。

成人式終了後には、たくさんの記念品と花束を抱え、ご家族と来賓の方々、職員みなで記念撮影を行い、新成人もご家族も晴れやかな表情をされていました。

ご家族からは「こんなに多くの方に祝っていただき感動しました。ありがとうございました。」と感謝の言葉も頂きました。

節目となる成人式を新成人やご家族と共に祝えたことを大変嬉しく思います。また、今年度の成人式を無事に挙行することができ安堵しました。

保育士 西田 益三



成人式を迎えられたおふたりとご家族

# 医療安全管理室 だより

こんなことしています

## 出道五年

### こんなことしてきました

2012年4月に大変責任の重い医療安全管理室で新たなスタートを切り、あっという間に5年が経過しました。医療安全管理者として、目の前の事象に対し誠実に着実に一つずつを目標に活動して参りました。

職員の皆様、地域の方々、患者様（ご家族）のご協力とご支援のおかげで少しずつではありますが取り組みの成果が見えてきました。

特に強化したことは、①ゼロレベルからのヒヤリ・ハット報告、②転倒・転落予防、③重心病棟における骨折予防です。2014年からは、全職種構成の医療安全部会（36名）で4グループに分かれて活動をしています。医療安全への取り組みは組織（全職員）として、継続して取り組むことがとても重要です。

1,000件～1,400件／年間だったヒヤリ・ハット報告は徐々に増加し2014年

には2,543件でした。報告件数は増えてきましたが、転倒・転落件数は着実に減少してきています。重心病棟の骨折予防も、関わる全スタッフが一人ひとりの患者様の特徴や注意点を把握して統一したケアをすることで骨折予防につなげています。4月から担当者は変わりますが、引き続き医療安全活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

※編集部注 「ヒヤリ・ハット報告」：事故には至らなかったがヒヤリとしたりハッとしたりした事例のことです。



## ご利用ください

### 喫食コーナー

病院では様々な検査を行います。消化器系の検査の場合などは、食事を抜いて頂くこともあります。入院患者様なら、終了後病室で食事を取っ



て頂けますが、外来患者様の場合は、検査結果が出るまで待っていただく場合があります。その間にお腹を満たしていただくのですが、外来ロビーではほかの患者様の目もあり、特に女性の方などは抵抗があるのではないのでしょうか。いつ呼ばれるか分からないので、外へ食事に行くわけにもいかず、かといってお腹は空くし...と、お困りの経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

当院では、外来ロビー窓側の一角をパーティションで仕切り、机と椅子を置いて、食事を取って頂けるスペースを設けています。

あまり広くはありませんし、机や椅子も上等なものではありませんが、ロビーからの視線はある程度防げるようになっていて、岩伽羅山（いわがらやま：戦国期東温市一帯を治めていた和田氏の居城があった山です）をはじめ、東温市の山並みを眺めながら食事を取って頂けます。

売店では、お弁当やサンドイッチ、パンを販売しております。またカップ麺用にお湯も準備しておりますので、検査後のお食事にご利用ください。

管理課



厳しかった寒さも和らぎ、うららかな日差しが心地よく感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。つくしや山菜など、春の訪れを知らせてくれる食材を見かける機会も増えてきたのではないのでしょうか。

今回は、「山の王者」とも呼ばれる「たらの芽」についてご紹介します。「タラ」は、ウコギ科の植物で、北は北海道から南は沖縄に至るまで全国の山野に広く自生しています。春の初めに芽を出す新芽を「タラノメ（桜芽）」「タランボ」と呼びます。ほのかな苦みやもちりとした食感が人気の食材ですが、春の息吹を与えてくれるめでたい木ともいわれ、邪気を払い不老長寿を願って食されたともいわれます。最近では、栽培も進んできたこともあり、以前に比べると長くスーパーなどの棚に並

ぶようになりました。天然物よりも栽培物の方が、苦味やクセが穏やかですが、その分風味は弱くなっているようです。タラの芽本来の香りを楽しみたい方には、やっぱり天然物の方がいいですね。

タラの芽を使ったメニューとして代表的なものは、「天ぷら」ですが、油で揚げるとアクはかえって旨味となり、栄養成分も流出することなく食べられます。また、アク抜きをしてお浸しにしたり、胡麻や味噌を使って和え物にしたり、パスタの具や炒め物などに使ったり…と、バリエーションも広がります。旬の食材を使って、食卓に春らしさを取り入れてみませんか。



## 職員募集中



職 種：ナースアシスタント（非常勤）

勤務内容：病棟内の看護助手業務

給 与 等：時給880円

通勤手当・賞与あり

マイカー通勤：可（無料駐車場有）

年 齢：不問

勤務時間：週32時間以内

休 日：シフトによる

休 暇：有給休暇・無給休暇

福利厚生：社会保険 厚生年金 雇用保険

選考方法：書類選考後、面接による選考

お問い合わせ先：

愛媛医療センター

〒791-0281 東温市横河原366

Tel.089-964-2411（代表）

担当／管理課 庶務係長

# 看護学校の頁

～学び舎から～

飛び立とう

## 第十三回 卒業式

未来信じて

私達第13期生は3月1日に卒業式を迎えました。卒業式には、ご来賓の皆様よりご祝辞をいただき、また指導をいただいた皆様にご列席を賜り、より一層専門職業人となる重みを感じました。

思いおせば3年前、これから始まる看護学校での生活に期待と不安を胸に本校に入学いたしました。1年次には隣地実習の前に看護師になる決意を誓い、2年次には本格的な領域別実習が始まりました。また、学校行事では2年生が中心となって協力し合い、学校祭などを行いました。3年次は実習と国家試験の両立がとても大変でしたが、実習で受け持たせていただいたすべての患者様、実習施設の皆様、本校の先生方より教えていただいたことは今後看護師として進んでいく中での基盤となりました。



在学中には、広島市の土砂災害や熊本地震などがあり、私達第13期生は1年次より避難所生活体験や災害シミュレーションを重ね、災害に対する意識を高めるだけでなく、医療従事者の1人としてとるべき行動を学ぶことができました。

昨今自然災害国家であることや、少子、超高齢化する社会において、人々の健康に対する価値観は多様化し、医療・看護に対する期待は高まっています。それに応えられるよう、本校で学んだことをそれぞれの分野で活かし、今後現場での経験を積んでまいりたいと思います。

看護学校を卒業し、専門職業人として新たな一歩を踏み出すとともに3年間の学びを糧とし社会に貢献していきたいと思います。

第13期生 仙波 響



※本校は看護師国家試験に全員合格しました！

### ちよいと言いつ放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

今回で55回目の開催となり、愛媛県の冬の風物詩となっている愛媛マラソンが2月12日に行われました。今年の愛媛マラソンは毎年恒例となっている高橋尚子さんに加え、二世タレントの渡辺祐太さんや愛媛出身のものまねタレントみかんさんをゲストランナーに、土佐礼子さんをスペシャルサポーターに、公務員ランナーとして知られている川内優輝選手を招待選手として迎え総勢10,201人のランナーで盛大に開催されました。

私は昔から長距離を走ることが苦手でしたが、2年前初めて愛媛マラソンの中継をテレビで観たとき、たくさんの方の応援を受けながら懸命に走るランナーに感動し、私も走ってみたいと思いました。昨年はエントリーしたものの、残念ながら抽選にもれてしまいました。今年も当選し、ようやくスタートラインに立つことができました。

前半は冬晴れの手伝いもあり、軽快に走ることができましたが、20kmを過ぎたあたりから急に足が進まなくなり、擽った足を伸ばしながらなんと6時間以内でゴールすることができました。何度か折れそうになりながらも完走できたのは、肌寒中、たくさんの方の沿道での応援やボランティアの方々のサポート、共に走ったランナーからの励ましがあったからだと思います。

よく人生はマラソンに例えられますが、山あり谷ありの平坦ではない道をたくさんの方々の応援やサポートを受けながら自分の足で目標に向かって進んでいく。これが、人生にも通じるところなのかなあと実感しました。

みなさんも来年は参加してみてもいいでしょうか。「もうだめだ！」と何度も思いながらも愛媛の温かい人々に支えられながらたどりついたゴールでは、今までの辛さが一瞬にして吹き飛ばすような達成感や感動を味わうことができると思います。翌日の全身の筋肉痛と引き換えに…。

土佐のいごっそう



# 外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858  
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金
循環器内科	船田	岩田 泉 横本	岩田 泉 檜垣(第2・4・5)	岩田	船田
消化器内科	古田	山内(一)	久保 廣岡	山内(一)糖尿病専門 大藏	久保
呼吸器内科	阿部	伊東 邊	佐藤	阿部 大久保	伊東 川上
神経内科	小原	白岡		小原	戸井
外科	石丸				
消化器外科		鈴木	森本	渡部(第3)	
呼吸器外科				佐野(第4) (14時30分~)	湯汲
整形外科 午前のみ診療	宮本 相澤		相澤	宮本	担当医(初診のみ)
リハビリテーション科		曾我部	曾我部		横手
専門外来 (予約制)	心臓外科			泉谷(隔週)	
	ペースメーカー外来			第2・4(午後)	
	糖尿病外来				古川(第2・4)
	フットケア外来			毎週	
	スキンケア外来		第1・3(午前)		
	ペインクリニック			山内(康)(午前)	
	じん肺外来				西村(第1・3)(午前)
	アスベスト外来		午後		午後
	息切れ外来	渡邊(13時30分~)			
	SAS外来				渡邊(14時~16時)
	神経難病			橋本	
	小児(神経外来)	菊池		濱田	
頭痛外来				永井(第2・4)(午前)	

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。  
 ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。  
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

2017年4月1日現在

## 独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251  
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

### 当院の位置と交通



#### 高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
  - 高松西IC(130.9km) 1時間30分
  - 徳島IC(170.9km) 1時間50分
  - 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当センターまで車で5分)

#### 交通機関

- 電車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分  
または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
  - バス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
  - 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
- 無料駐車場完備

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会までお寄せください。